

デンタルダイヤモンド／2015. 12月号（中島副委員長 記）

○実践歯科ライブラリー：認知症患者の口腔を守る歯科治療（平野浩彦・枝広あや子）

＊地域のかかりつけ医として、認知症患者さんを診る機会は明らかに増えると思われる。本特集では、「認知症を歯科治療ができない理由にしない」ために、認知症の基礎知識として①認知症の中核症状・周辺症状 ②歯科対応時の留意点 ③認知症患者の栄養マネジメント ④原因により異なる認知症の変遷 ⑤フレイルの概念から認知症の進行を考える ⑥認知症を支えるための緩和ケアの視点 について詳しく記載しています。認知症患者の口腔を守る歯科医療として認知症を取り巻く多職種との連携、知識の共有、ポイントについて記載しています。診療のポイントとして、患者さんが認知症を発症していることの気づきポイントや診療時のポイント、対応のポイントを記載しています。歯科医師として、知っておいた方が良い内容です。

○Risho.com:なぜにDigital なぜにCAD/CAMなのか（墨 尚・高橋 哲）

＊インプラント補綴において、アバットメントは歯肉を貫通するため、非常に重要なパーツであるが、金合金のアバットメントはイオン活性を有するため、分厚いバイオフィルムの形成を許してしまう。ジルコニアアバットメントは審美性に優れるが、硬すぎるためフィクスチャーに負担をかける。チタンアバットメントはマイクロリンケージが少なく、骨吸収が少なく、審美性を除いて、良好なアバットメントである。審美性は陽極酸化処理でアバットメントにゴールド色をつけることで回復できる。したがって、CAD/CAM 技術を応用して、望む形態のチタンアバットメントを作製し、審美的な部分では、チタンに陽極酸化処理で彩色する方法が良いとしています。興味深い内容です。

歯界展望／2015. 12月号（小野委員長 記）

○GP がおさえておくべき 小児期の幼若永久歯への対応と視点 ―生涯、歯を守るための知識― （東京歯科大学小児歯科学講座 辻野啓一郎 新谷誠康） 第三回（最終回）「注意すべき乳歯の癒合歯」―後継永久歯に与える影響から―

＊近年「乳歯の癒合歯が増えた」とか「永久歯の先天欠損をよく見る」と言う話をよく聞く。本稿は乳歯癒合歯と後継永久歯への影響について、部位別に統計を採っている。例えば下顎のABの癒合歯では後継永久歯が2本ともそろっている場合が80%以上あるのに対し、下顎BCの癒合歯では70%以上の側切歯が欠損していたようだ。癒合歯の後継永久歯は先天欠損する場合がほとんどという認識を覆させられた。乳歯の癒合歯を発見した場合、保護者に対し継続的な診察が必要で、将来について予想されることや治療には適切な時期があることを伝えるべきと感じた。一読をおすすめしたい。その他 歯内療法の特集も2題シリーズで連載されている。牛窪先生のシリーズは9回目に入っているし、前号からの「歯内療法は変わったのか？」―ベッシクからの見直し―というシリーズもなかなか興味深く為になると思う。

ザ・クインテッセンス／2015. 12月号（岡崎副委員長 記）

○超高齢社会におけるインプラント装着様式を再考する ホームドクターの立場から（竹下賢仁）

＊年間約200症例に20年間で埋入した7,176本のインプラントについて、無歯顎を含む多数歯欠損症例において機能性・清掃性・永続性の観点から有効と考える上部構造装着様式について検証している。その結果、スクリュー固定式やANG（Auro Galvano Crown）を用いた術者可撤式上部構造は健康時にしっかり咀嚼でき、インプラント周囲炎に対する処置や上部構造修理時にも有利であるが、重度の痴呆症などでインプラント補綴が口腔内や残存歯を損傷するなどのリスクが高まる場合には、粘膜下にインプラントをスリーブさせることができる2回法インプラントを用いることが望ましいと述べている。他、セメント固定式のメンテナンスドロップアウト症例やアバットメントの材質、介護現場における問題点などにも触れている。

○力のリスク診断によって変わる治療計画 第2弾 力によって起こるトラブルと現象（大森有樹）

＊われわれ人間の口腔に起こるトラブルの原因はう蝕・歯周病・力（咬合）・医原性の4つが挙げられる。力に起因するトラブルは非常に多く、われわれ臨床家を悩ませる。「力によって起こるトラブルと現象」リスト項目を挙げ、その意味と発生機序を説明し、力のリスク診断と実際の治療を紹介している。まとめでは「ブラキシズムは人生の中で変化する。メンテナンス時に力によって起こる現象をチェックすることで、力のトラブルが可能となる。よって歯科医師のみならず歯科衛生士もこれらの現象を見つける習慣をもつ必要がある」と結んでいる。

歯科評論／2015. 12月号（居樹副委員長 記）

○特集／総義歯治療で最も大事なことは何か？（亀田行雄 阿部二郎 他）

＊総義歯治療得意ですか？特に若手の先生は苦手になっている方が多いのではないのでしょうか。その難しさは一つ一つの複雑な工程によるものでしょう。そしてその工程を一つ間違えると全ての工程が無駄になってしまうことも。本特集はそれぞれの工程を臨床の場において検証し、詳しく解説しています。是非一読し、自分の臨床にフィードバックすることをおすすめします。総義歯治療が得意になるかもしれませんよ。

○審美補綴におけるマテリアルの選択基準を考える（田中秀樹）

＊最近の審美修復はめざましい進歩を遂げています。特に材料は従来のメタルセラミックスからオールセラミックスへと変わってきています。そしてそれは金属に変わるジルコニアやe.maxなどの新しいマテリアルによるものが開発されてきたからだといえます。しかしこれらのマテリアルも使い方を間違えば利点を十分に発揮できません。それぞれの特性を記し、どう使うか臨床例を交えて解説しています。審美修復を行うために参考にしてください。